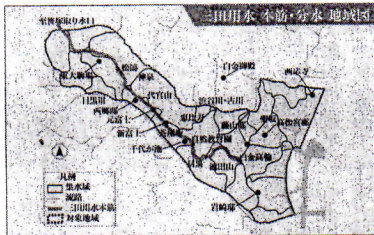


緋 研 教 室

くらしのまわり

歴史の語り部が不在に

2020年には4000万人の外国人観光客が訪日するといろが、東京・代官山地域の歴史を語るどころか、存在さえ知らない人が増えている。この啓蒙こそ当法人の役割と、9月に「代官山ステキサロン」を開催。渋谷・恵比寿・中目黒・池尻大橋、この広域代官山エリアに小さな用水(上水)が江戸時代初期(1664年)から流れていた。「玉川上水」を笹塚で分枝し西渋谷台地、白金台地の稜線を縫うように走り各時代の歴史的役割を果たしてきた。それが320年の歴史を持つ三田用水だ。



●三田用水歴史観光圏を

泳いで遊んだ、三田用水管理組合と最後に折衝をした体験者など、生まれ育った人ならではの経験談を披露。しかし、全員70歳以上で、このままでは三田用水を体験的に語れる方がいなくなることを痛感。

区界超えた歴史観光圏

笹塚の分水口から駒澤・松濤・神泉・代官山・恵比寿・白金・三田、芝・西応寺まで多くは開渠で12・4キロ。開通当初は芝・品川あたりの大名・旗本等の生活用水として重用された。名称も「三田上水」だったが、1722年、幕命により「三田用水」となった。多くの大名庭園では三田上水を活用して滝や池を造作。岡山藩池田家の下屋敷跡は「池田山公園」として残された。明治期には西郷縦道邸(現在、重要文化財として明治化財として明治村に移築)が2万5000坪の敷地に建ち、現「西郷山公園と庭園遺跡」。旧山手通りにあるヒルサイドテラ

代官山エリアを流れて320年

スも大事な資源で、その裏手に重要文化財になった「旧朝倉邸と庭園」は東京府議会議長を務めた朝倉虎治郎が大正8年に建て、公開。ほかにも幕末から明治にかけて日本の近代化を支えた水車業の発展や、恵比寿駅の名称にもなる日本麦酒醸造等々、数え上げればきりが無い。

この三田用水は世田谷区、渋谷区、目黒区、港区、品川区とそれぞれの区界に利用。各区のサイトでは、自区が接する三田用水部分やその分枝水路は詳しいが、隣接区との関係や用水全体の情報は乏しい。今、三田用水そのものは存在せず、川べりに植えられた樹木は大樹木に育っている。三田用水跡地を渋谷川・古川と目黒川で挟んだエリアを一つの観光圏として捉えては、という提案だ。それぞれの歴史資源はJRの新宿駅から品川駅に沿って、各駅から私鉄で一駅周辺にあり徒歩圏内であり、各駅周辺には多様なタイプの宿泊拠点が多々ある。これら貴重な歴史資源をつづれば立派な「三田用水歴史観光圏」が成立するものと思われる。(岩橋謹次NPO法人代官山ステキ総合研究所理事長)